

(銀のエンジェル賞 小学生中高学年の部)

マルハくん

小五・安樂 礼寧

マルハくんは、花丸の男の子です。マルハくんは先生のかく花丸にそっくりなので、みんなマルハくんに気づきません。そして、マルハくんは移動できます。そう、よくできている子のノートに飛び移るのです。マルハくんは今日も良いノートを探していました。

「今日は誰のところに行こうかな。中休みの後、みんなのノートを見に行こう。」

マルハくんはそうつぶやき、中休みの様子を見ていました。すると、ろう下で誰かが怒られていました。先生の声です。

「北内君。一回も、花丸をもらっていないのはお前だけだ。」

北内君という子が怒られています。

「もっと字をきれいに！ 勉強しろ！」

と、今度はどなり声がしました。北内君は、うつむいています。先生は怒るだけ怒って、去っていきました。その後から、男の子が何人かやってきました。ボスみたいな子が言いました。

「だっさ。花丸とったことないのかー？」

子分みたいな子が

「ひゃっ、ひゃっ。バーカ」

「そんなこと言わないでよ。」

北内君が言いました。

「フン、花丸もらったら言わないでやる。」

とボスが意地悪く言いました。キーンコーンカーンコーンとチャイ

ムが鳴り、計算ドリルをする時間になりました。

マルハくんは棚から飛びおり、静かにみんなのノートのところまで行きました。そうっと見はじめました。いろんな子がいます。マルハくんが、見ていくと……

六〇点、八〇点、七五点、五〇点、〇点

「〇点！」

思わず声を上げてしまいました。でも、みんなには気づかれません。なぜって。マルハくんは人間からしたら、とても小さい声なのです。

（まさか〇点っていうことは、ないだろうな）

と思って、目をこすりました。でもやっぱり〇点です。誰かなと気になって、表紙を見ると、名前のところにな

『北内 陸』

という名前が書いてありました。さっきおこられて、意地悪されていた子です。

（こういう子は、いつまでたっても花丸がもらえないのかな。まあぼくもあの子のノートには、入ったことないけれど。）

マルハくんはかわいそうになり、

（ぼくが行ってあげよう！）

と思いました。そして、北内君のノートの中に入りました。しかし、気分が悪くなってしまいました。そう、マルハくんはきれいなところじゃないと、気分が悪くなってしまふのです。急いでノートからとびでました。

「うーん。ぼく、気分が悪くなっちゃった。とても無理だなあ。でも北内君にも一回ぐらいは花丸をあげたいなあ。そうじゃないと北内君が、ずっと意地悪されてしまふ。でも気分が悪くなるから……」

つぶやきながら、頭をひねって考えました。

「そうだ！！」

（北内君にも好きな教科があって、きれいなノートがあるかも）
マルハくんはそう思い、各教科のノートを見てみました。

しかし、どれもこれもきたなくて、点数も悪いのです。

（なんてこった。）

マルハくんはなげきました。もう、授業は終わって、みんな帰ってしまいました。

「少し、外で気分転かんをしよう。」

マルハくんはそう言っ、外へでかけました。外に出たとたんピューピュー冷たい風がふきました。

（もうすぐ十二月だもんなあ。すっかり冬かあ。）

マルハくんはつぶやいて、冬のものを考えていきました。

「えっと、雪、クリスマス、こたつ、みかんとか。学校だったら、暖房つけてくれるし、学期末は、たくさんテストがあつて。あ！　そうだ！！」

マルハくんは、ある学校の行事を思いつきました。そして学校へ行き、あの北内君の教室三年二組へ行きました。そして、時間割を見ました。

「明日か。きつと北内君もきれいに書くはず。」

その後、学校のたなにすわりこんで、ねました。マルハくんは、夢の中で明日のことを考えていました。

次の日の書写の時間です。マルハくんはこの時間を待ちに待っていました。マルハくんはたなから、北内君を探しました。

「あ！　いた！」

北内君がいました。一生けんめいに書いています。いつもよりき

れいです。

「よし、きっと大丈夫だ。」

書写の時間が終わりました。先生が、

「ろう下にはるぞ。」

と言っていました。先生がはったあと、マルハくんは、

「えいっ。」

北内君の書いた紙に飛び移りました。

先生がはりだしたらみんなぞろぞろ、ろう下に来ました。意地悪の男の子軍団もやってきて、北内君をバカにしようと思いました。

「おい、北内？」

男の子軍団は、からかおうとしていたのに、北内君の紙に花丸が
あったからおどろいていました。でも、北内君はそんなこと気づき
ませんでした。花丸に夢中になっていたのです。北内君は、ほおを
赤くして、じっと花丸を見つめていました。マルハくんは、北内君
にニツコリと、ほほ笑みかけました。
